

長期欠席児童生徒を支援する教育支援センターの取組

《概要》

- 新ひだか町では、令和4年度から、不登校及び不登校の予兆が見られる児童生徒へ、児童生徒の教育的ニーズに合わせた学習指導や、多様な体験活動を通して、自己肯定感や集団生活に適應できる力と意欲を育て、学校復帰に向けた支援を行うことを目的に、学校適應指導教室「ステップ」を開設している。
- 新ひだか町では、不登校及び不登校の予兆が見られる児童生徒への支援のため、不登校の状況判断及び基本的な対応方法について一覧にした、「長期欠席・不登校対応スタンダード」を策定・活用し、学校、関係機関及び保護者と、支援の方向性について共通理解を図りながら、継続的な支援を行う体制づくりを推進している。

《相談・支援等の実際》

目標・方向性

- 児童生徒の個に応じた支援のための、多様な活動の設定

- 学校及び家庭と連携した、児童生徒の支援に係る相談・支援体制の確立

相談・支援、取組等の状況

- ・「ステップ」は、新ひだか町の静内地区と三石地区の2地区において、町の施設を活用し、元小学校教員の指導員2名(常勤1名、非常勤1名)が、2地区を交互に、隔日で開催している。
- ・「ステップ」では、指導員が、利用している児童生徒の学習の習熟度に合わせ、教科の学習指導を行うことを原則としている。
- ・教科の学習指導に加え、児童生徒の教育的ニーズに対応し、タブレット端末を活用した自主学習、作業学習等による個に応じた支援や、カードゲームなどの交流活動、バドミントン等の体育活動等による集団的支援を設定するなど、多様な活動を設定している。
- ・指導員は、定期的に学校訪問を行い、利用している児童生徒の状態について、管理職、学級担任及び保護者と情報共有を行い、相談・支援の体制を整えるとともに、「長期欠席・不登校対応スタンダード」を活用するなどして、今後の指導内容の改善を図っている。

《取組の成果》

- 教育支援センターを利用し、学習や体育活動を行うことにより、生活リズムが改善され、学校復帰へつながるケースが見られた。
- 教育支援センターにおいて、不登校及び不登校の予兆が見られる児童生徒及びその保護者へ、教育支援センターの意義や活動内容等を記載したチラシを作成し配付するなど、継続して周知を行うことができた。